

「玄米＋雑穀 39 種類甘酒作り 母に毎日 1 回飲用」(腸内細菌正常化)

免疫治療 1クールから飲用開始。普通の生活しながら 1クールごとに治療効果があり、数か月ですべて母の癌がほぼ消えた。

腸内細菌と**土中細菌**は 同じ。発見！

きっかけ(〇市 HT 医師)

4年前、母(80歳)肺癌＋肝臓&肺門転移、余命半年。

副作用少ない免疫治療(自己血 NK 細胞培養増加)＋免疫チェックポイント阻害薬＋少線量放射線治療実施。血液検査で癌マーカー上昇。

免疫治療には腸内細菌(腸内フローラ)正常化必須条件認識。

「土と内臓」微生物が作る世界(デビッド・モンゴメリー＋アン・ビクリー著)

農学と医学共通する基礎(数年前読)から「土中細菌と腸内細菌は同じもので宿主に対し共存助け合うこと理解。

「玄米＋雑穀 39 種類甘酒作り母に毎日 1 回飲用」(腸内細菌正常化)

免疫治療 1クールから飲用開始。普通の生活しながら 1クールごとに治療効果があり、数か月でほぼ母の癌が消えた。

目から ウロコ でした

私の場合；今年 4 月より胃の調子(2018 年玄米食炊飯失敗で胃潰瘍)悪く、多分再発。

6 月 5 日より発芽玄米粥 OR 玄米クリームと野菜と豆腐主体 1 日 2 食半日断食法＋1 日 3 回人参ジュース・青汁・豆乳 1.5L。

8 月 26 日より上記「玄米＋雑穀 39 種類粉末カプセル『腸活龍王』」

就寝前 1 カプセル頂いています。カプセル内は玄米雑穀の皮の粉末で 5 日程度胃内がチクチクしましたがほぼ 1 か月経過の今日、胃の復活を感じています。空腹時の違和感も吐き気とむかつきが消えています。もう 1 か月で何とか普通食、禁酒も終われるか？前回潰瘍治って？？暴飲暴食が原因ですから、好きなお酒も慎重に・・・です。

樋口寛美文責



詳細資料 (HT 医師レポ)

◆きっかけ

4年半前に、母（当時80歳）が肺癌＋肝臓および肺門部転移がみつきり、半年の余命と分かる。あまり治療や検査に積極的でない母に、副作用の少ない免疫治療（自己血からNK細胞を取り出し培養して増やして戻す）＋免疫チェックポイント阻害薬（ノーベル賞を受けた薬 成人量の1/10量）＋少ない線量の放射線治療（6Gy 普通量の1/10）を勧めた。当時大阪梅田に免疫治療を行っているクリニックがあり、2週間に1度づつ5回1時間ほどの点滴を受けた。1クール（5回）ではほぼ癌マーカーが正常化した。しかし月1回の血液検査では、次第に癌マーカー（CEAとCa19-9）が上昇したために、2クール目からは、放射線治療も加えることにした。放射線治療は今治のサイバーナイフを一泊二日で受けた。本来、放射線治療は根治的にあてるものなので、あえて小線量にしてもらった。これはあくまでも免疫治療を主としたためである。点滴後に抗がん剤にあるような副作用はなく、梅田駅前で寿司をたべて帰り、翌朝も「なんともないよ」といった状態であった。（ただし1クール終わるころには、肺線維症が免疫チェックポイント阻害剤の副作用がでたが、軽度のために自然に緩解している。その間に生活に支障はなかった。2クール目からは種類を厳選して副作用の問題なかった。）

◆なぜうまく効いたのか？

以前から免疫治療は研究されていたが、効果にバラつきがあり、完治しないといった概念があった。しかしここ数年で、免疫には腸内細菌の状態が影響することがわかりつつあり、がん免疫治療も腸内フローラの正常化が必須であることが必要と認識していた。そこで腸内細菌を正常化させる目的で、玄米＋雑穀39種類を用いた甘酒を作り、母に1クール目から毎日1杯づつ服用させた。その後さまざまな患者さんに服用してもらったが、ほぼ全員が「便の匂いがなくなった」「快便になった」と感想をいただいている。つまり腸内フローラが多様性を得ると、食物を完全分解するために、匂いがなくなったと考えられる。

◆その根拠

数年前に農学と医学の共通する基礎をわかりやすく総説した本にであい、まさしく自分で畑を1から起こしてきた実感と診療の臨床経験がそのまま書かれている本がこれ。

「土と内臓」微生物がつくる世界

デイビッド・モントゴメリー＋アン・ビクレー [著] 片岡 夏実 [訳]

2,700円＋税 四六判上製 392頁 2016年11月刊行 ISBN978-4-8067-1524-5 築地書館

その中に、土中の細菌と腸内細菌は同じものであることや、宿主に対しての共存し助け合うことなどが、詳細に最新の論文をわかりやすく解説していた。その後ここ数年の医学関連論文では、ほぼすべてのジャンルの病気の原因の1つに腸内細菌の多様性の欠如が指摘されだしている。精神疾患領域でも、腸内で食物が完全分解できないために、イライラする化学物質ができたりすることが指摘されている。

◆なぜ雑穀なのか？

それではどうすれば腸内フローラが多様化して、病気を治癒する方向へ持っていけるのか？以前から農業で分かっていたことは、「ある作物にはその作物に特有の土中の細菌が共存している」ことだった。つまり垂直感染（母から子へ細菌を渡すこと）を示唆する現象であり、根の先端に土中の細菌が共存することを考えれば、種の皮に垂直感染の細菌がいると推測した。事実、2021年10月に発表された論文では、無菌状態の培地に種を植えて、密封した状態で育成し、その根に細菌がいるかどうかの実験がされた。なんとその根にはその種の作物特有の土中の細菌がDNA検査で判明している。また人糞>鶏糞>豚糞>牛糞の順に肥料効果が高いことから、草だけをたべる牛では腸内細菌の多様性が少なく、種を食べる鳥や人が多様性があるからこそ進化したとも考えられる。

◆なぜ甘酒なのか？

癌免疫の活性のために、アガリスクなどのキノコ類に含まれるβDグルカンが有名であるが、ヨーロッパではパン酵母の研究が主であり、同じくIL12（癌免疫を賦活するサイトカイン）が増えてくることが紹介されている。日本にしかなく、また主食であるコメの同等なものが、米麴である。また雑穀の種の皮には、多くの腸内細菌のもとがあると推測した結論である。

◆漢方は自然に治すように働く

西洋の医学が戦後に中心となり、現在も主流として続いています。根本的に治すといった薬がほとんどない状況です。高血圧1つ見ても、血圧を一時的に下げる薬はありますが、完全に治す薬はありません。よって一生飲むように勧められます。ある値を下げたり上げたりする薬がありますが、その値を左右するコントローラを正常化する薬はありません。その点、漢方は、コントローラに作用する薬がほとんどで、根本的に治るよう誘導するような薬として考えられます。また証をきちんとみれる先生のだす漢方は的を得ると劇的に効果がでます。

◆本気で治そうとする医師が少ない

残念ながら、厚生労働省の指導する保険医療の中では、本気で治そうとしても薬漬けにしてコントロールするものしかないために、しだいに本気で治すことなど考えなくなります。そんな中でも、本気で治すことこそ医師の目的と考える先生方と出会い、勉強会を月に数回持つようにしています。小さな診察室に多いときで5名のほどの医師と鍼灸師などが、同時に1人の患者さんをみて、相談しながら治療を勧めます。そこに来られる患者さんは、年齢も性別も様々ですが、難治な他の病院などでうまくいってない人が多いのです。しかし望まれる結果がでてくると、暗かった顔が明るくなります。